



食育だより

元気 やる気 思いやりのある雀央っ子

宇都宮市立雀宮中央小学校

令和7年度1月号

あけましておめでとうございます

冬休みが終わり、授業が始まりました。休み中は、規則正しい生活を送れましたか？今年もみなさんにおいしいと言ってもらえるような給食を出していきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。

まだまだ、寒くて流行性の病気がでてくる季節です。朝ごはんを食べて、体調管理に気を付けて、一日一日を大切に過ごしてほしいと思っております。



お年玉(としだま)はもち(もち)だった!?

お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではないのでしょうか。

さて、お正月の楽しみの一つといえばお年玉。新年を祝って、大人から子どもへお小遣いを渡す風習です。もともとは、お正月の「歳神様(としがみさま)」にお供えした「もち」を、歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂」を意味します。大事に取り使う気持ちが大切ですね。



1/24~1/30は「全国学校給食週間」です

日本の学校給食のあゆみ

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。

大正12(1923)年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励され各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止になってしまいました。

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。始めは12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。

